

令和6年度 ひきこもり支援講演会 オンライン(Zoom)参加者アンケート結果
(6.10.19開催 回答者 17人)

1 年代に○のご記入をお願いします。

20代→1人 30代→2人 40代→4人 50代→7人 60代→2人
70代→1人

2 (1) 参加者のお立場

当事者→2人 当事者家族→5人 支援者(民生児童委員等)→5人

その他(一般、関心のある人)→5人

(2) 現住所

- ・ 松本市 7人 ・安曇野市 2人 ・白馬村、飯田市、佐久市 各1人
- ・ 静岡県裾野市、愛知県春日井市、名古屋市、岡山県里庄町、鹿児島県霧島市 各1人

3 研修会の全体の感想につきまして、(1)~(5)に該当する項目に○のご記入をお願いします。

(1) 大変よかった→11人

【理由】

- ・ ありがとうございます。(3人)
- ・ 当事者視点の話が、非常に良かったです。
- ・ 近隣地域でのこのような講演会がなく、参加させていただけたことは、ありがたかったです。現在私の地域では現地開催のみで、今回の Zoom 開催には大変救われました。経験者の言葉や体験は、この先の家族にとっても心強く感じます。共に向き合うのではなく、伴走する気持ちで心を入れ替えて過ごしていけたらと思います。
- ・ 行政機関で、ひきこもり支援を担当しています。日々の支援を通して、迷うこともたくさんありますが、当事者の生の声や思いに寄り添う気持ちを持って関わる、時間はかかるかもしれないが、その人が望む生き方を伴走しながら支援するという視点を再確認できたから。
- ・ 当事者の経験を分かり易く、生で語ってもらい知ることができたから。
- ・ ご自身も経験者だから、できる支援活動をされている事で、当事者の方がどうしてほしいのかがリアルに伝わってきました。

- ・ また、8050問題で経済的に心配されている方が非常に多く、今回ファイナンシャルプランナーの方への相談及び生活保護を利用することの権利のお話が、非常に希望になりました。
- ・ また、ファイナンシャルプランナーの方に見ていただくことで、林さんもおっしゃられていたように、月2〜3万円分働けば、生活が何年していけるか等のハードルを下げた働き方の提案をしていただけることで、「正社員でなければ。」というハードルが下がり、より安心して「気軽に仕事を試みようか。」となり、本人も家族も安心して、日々の暮らしが送れるようになることが、リアルに想像できました。
- ・ やみくもに心配ばかりが先に立ちがちですが、安心できる生活があるから、次の段階の幸せな人生につながるのだと実感できました。ひきこもり家族は幸せな人生が送れないというあきらめから、希望の光が見えてきた気がします。
- ・ 当事者視点からのお話、元ひきこもり当事者として、自分の経験と重ね合わせながら、味わい深くお聴きすることができました。共感できる部分が多く、示唆に富むお話だと思いました。
- ・ その反面、当事者の中の多様性についても、思いを馳せる時間となりました。一人ひとりの置かれている状況は、皆違うことを考えたとき、あまり元当事者だからと自分を過信し過ぎず、その方の人生のあり方を、改めて大切にしたいと思いました。大切な気づきがありました。
- ・ 当事者の気持ちを丁寧に伝えてくださっており、痒いところに手が届くような心配りをしながら、お話をなさっているように感じました。
- ・ 当事者としての視点の話をお聞きできたから。
- ・ 支援者としての思いと、当事者の望んでいることのずれを、改めて感じました。
- ・ 家族として、悩みはつきません。でも、林さんのお話を伺い、元気になりました。
- ・ 家族が大事にする事、就職より何より、本人が幸せを感じて暮らせるように関わりたいと思います。
- ・ 本人の体験が、とても参考になった。
- ・ 家族の接し方について、具体的なアドバイスがあり、ありがたかった。
- ・ 林先生の実験の経験から出てくるお話がとても心に残り、支援者として当事者の方と向き合わせてもらう中で、何一つわかった気になってはいけないなど、改めて感じました。
- ・ 自分自身が支援者という看板を立ててはいるものの、感覚としてはただ同じ社会を生きる一人の人間で、同じように悩んだり落ち込んだりしながら生きていて、支援とか助けるとか、そんな大それたことはできないけれど、ただ話を聞かせてもらって、当事者の方

の思う幸せに近づくために、一緒に悩んであれこれやってみることができる人間でありたいと思いました。

(2) おおむねよかった→5人

- ・ 当事者の方の生の声が聴けたこと、家族や支援者ができることやしない方が良いことが、わかりやすく説明していただけたことが、良かったです。
- ・ 音声が聞き取りにくかった(特に司会の方)。会場の音声を拾っていたのでしょうか。くぐもった感じで、聞き取れない部分も多かったです。
- ・ 林さんのお話は、とても良かったです。やはり当事者の話は、貴重です。
- ・ 当事者の方々の置かれた環境や、色々な事例を伺えたこと、関わり方の具体的な方法が、とても参考になりました。
- ・ 当事者家族が「あわてない、あせらないこと」の大切さが、よくわかりました。

(3) ふつう→1人

- ・ 音声が聞きにくく、特にスライドを使う前は、理解できなかった。
- ・ 当事者の視点からのひきこもりについて聞くことができたことは、良かった。

(4) あまりよくなかった・(5) よくなかった→0人

4 ひきこもり研修会の内容に関する要望等(自由記載)

- ・ 貴重なお話をいただき、ありがとうございました(4人)。
- ・ 現場と管理者との温度差があるなあと常々感じます。地域共生社会の実現を目指していく中で、取りこぼされているような気がしてなりません。
- ・ 当事者の声をしっかりと聞き、当事者が必要としている、本当に必要な支援を届ける事が大切だと思いました。
- ・ ひきこもっていた方が、今は家族と一緒に安心できる生活と、幸せな人生が送れているという方の事例紹介をしていただく機会があれば、うれしいです。ひきこもったから、もう幸せになれないというあきらめを希望に変えられる機会になると思います。
- ・ 行政的には「ひきこもりの理解と支援」なのだと思いますが、林さんのお話にも出てきた「福祉臭」ならぬ「行政臭」のしない演題があってもよいのではないかと…と思いました。
- ・ 林さんが「やっと日本語を通じる人と出会えた。」という言葉が印象的でした。そうすると、支援を必要としているのは、むしろ「多数派」の側、地域や学校、社会の側なのは？という疑問も浮かびました。支援を必要としている多数派の人が、たまたまひきこもり状態にある人を支援してあげるといふ矛盾…それは「上から目線」で「違和感」がものすごくありますし、そういう感度の鈍さが「支援臭」につながるんだろうなあ…と今回、

妙に納得してしまいました。支援という言葉がいない社会とは、どのような社会だろうか…そんなことも考えました。

- ・ ひきこもり当事者として活動しているピアサポーターをしています。当事者会でひきこもっている方々とお会いすると、自分の気持ちや体験を整理し、その場で淀みなく話される、トーク力の高い方ばかりです。先生のおっしゃる通り、スキルの高い方が多いです。
- ・ そういう方々は、皆さん外に出て働きたいと仰るのですが、とにかく怖い、自分に何ができるのか分からない、求人を見ても選べないと話されます。職業訓練や就労に向けたスキルを身につけられる場所、短時間労働で職業体験できる場など、地域で連携してもらえると良いのにと実感しております。
- ・ タイミー(すぐ働けて、すぐお金がもらえる隙間バイト)など、履歴書なしで当日のみ就労できるものなど、軽作業で短時間の仕事に付き添って体験してみるなどの新しい仕組みづくりや取組も、これからできてくるのではと期待しています。
- ・ ひきこもりを個人の問題にせず、教育をはじめとした社会が変わっていくために何が必要か、考えさせられました。
- ・ ひきこもりの人、家族の話を聞いてくれる医者やカウンセラーの情報が欲しいです。
- ・ 行政は異動もあるので、長く関わりが持てるNPO団体等とも協力をしながら、支援してもらえる体制を整えてもらいたいです。
- ・ 講演にもありましたが、アンケートの2・(1)の質問には、回答しにくい方もいらっしゃると感じます。
- ・ ますますひきこもる方が増えると思います。少子高齢化対策と同様に、日本国として手立ての充実を要望します。
- ・ スピーチの音が悪く、聞き取れないところが多くありました。
- ・ オンライン参加者への配慮、会場での対応、特に質疑応答の時間の進め方など、運営者側の準備不足を感じた。リハーサルを十分して、講演会を開催してもらいたい。
- ・ (富山県の方 アンケートのアドレスが送信されなかった)

ひきこもりUX会議のホームページから、講演会の開催を知りました。

講演会は、完璧なものでした。何の問題もなかったと思います。

とても有意義な講演会だったので、貴教育委員会の取り組みを広く周知されることを望みます。

当事者の立場から言えることは、ひきこもり当事者は、助けを待っているということ。近隣住民の目があり外出できず、親は世間体を気にして、時間ばかり過ぎていくということ。ひきこもり本人は、自分でどうすることもできず、親の期待に添わなければという圧

力があるということ。家族の問題にせず、誰かに頼ること。ひきこもりの家庭にアウトリーチを積極的にすること。貴教育委員会は、ひきこもり当事者に味方なのだと知ってもらいたいこと。以上になります。

頼ることは、恥ずかしくないという世の中になればいいと思います。

多くの人に貴教育委員会の取り組みを知っていただき、ひきこもり当事者が「もう一度生きてみよう」と、人生を前向きに捉え、歩みだすことを願っております。